

## 令和8年度入学式 学長告辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。浜松医科大学を代表して、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。また、これまで皆さんを見守り、応援下さったご家族や保護者の方々にも、心からお慶び申し上げます。

医学科、看護学科に入学された新入生の皆さんは、医師、看護師

を目指して、受験勉強に励み、このたび見事に浜松医科大学に入学されました。初心を忘れず、今日まで応援下さった周りの方々への感謝も忘れず、将来の夢の実現に向けて、どうか充実した学生生活を過ごして下さい。また、皆さんは自分が今その時にいるのであまり実感はないかもしれませんが、皆さんが年齢を重ね、後で振り返った時は、今を輝くような期間として、思い出すのではないかと思います。勉学とともに、医大生として、青春時代の今しかできないことにもチャレンジし、彩り豊かな学生時代を過ごされることを祈っています。

皆さんにとって浜松医科大学は、知識と技術を修得する場であると同時に、人間性を高め、責任ある医療人としての成長を促す場でもあります。これから始まる大学生活を通じて、医学・看護学を学び、その専門性を深めるとともに、自己を鍛え、高い倫理観と責任感を持つ医療人としての基盤を築いて下さい。

浜松医科大学は、1974年に開学し、以来、「優れた医療人を育成し、独創性のある研究成果を世界に発信し、地域医療の中核的役割を担う」という建学の理念を掲げ、教育、研究、診療を通じて社会に貢献してきました。本学の卒業生は、静岡県内はもとより、日本全国、さらには国際的にも、様々な立場、医療機関や教育機関、行政、医師会などで活躍されています。静岡県では、県内医師の約3割が本学卒業生となり、まさに静岡県の医療を支えています。

建学の理念は、本学の根幹をなすものであり、時代が変化しても揺らぐことなく、世代を越えて受け継がれています。皆さんもこの理念をしっかりと心に刻み、誇りと、また同時に浜松医科大学生であるという自覚を持って学生時代を過ごしてほしいと思います。



本学医学科では、総合科学と基礎医学の融合によって学生の学習意欲を高め、また基礎医学と臨床医学を切れ目なく連結させるカリキュラムや、心理学、倫理学を臨床医学でも組み入れるなど、6年間を通した「らせん型教育」を実践しています。これにより合理的な思考力、判断力、表現力、創造力などを涵養しうるような、学びの場を皆さんに提供します。皆さんは、その機会を積極的に活用してほしいと思います。



看護学科においては、高度な専門教育を充実させ、大学院改革を進めています。看護学科の学生や臨床スタッフの教育に携わることのできる能力、さらに看護の実践の場を常に学術的な研究成果と結び付けて看護ケアの質を改善していく能力を有する人材を養成する Clinical Nurse Educator を配置する教育プログラムがスタートし、「新たな時代に挑戦する看護学科」が本格的に稼働しています。

ここで皆さんが本学で学ぶ際に必要な心構えを3つに絞って示します。一つ目は最も基本となる「学び」の姿勢であり、自ら進んで必要な知識を学び取る力をつけることです。現代の医学、看護学を修得するために必要な情報量は膨大です。講義や実習で伝えることは、そのエッセンスであり、関連する知識や技術を自ら広げる努力が欠かせません。自律的な学習は医師、看護師になってからも必須です。自ら学ぶ姿勢があつてこそ、主要な課題を抽出し、さらにその課題を解決する能力、即ち課題解決能力が身に付いていきます。

二つ目は、他者を尊重する姿勢です。他者には、患者さんやそのご家族、また、ともに医



療に取り組む多職種を含む仲間たち、そして友人やご家族も含みます。他者を尊重する姿勢を基盤として、共感力、コミュニケーション力、ゆたかな人間性が育まれていきます。さらに、他者を尊重する姿勢は、異文化や人種等の多様性を理解

し、受け入れることにつながります。

三つ目は、情熱を持ち続け、自分を信じて、挫けないことです。入学した皆さんが今持っている、医療人として、将来、患者や社会のために尽くしたいという、その情熱を持ちつづけてほしいと思います。学びや研究、臨床実習の過程では、困難に直面することもしばしば

あります。しかし、情熱を持ち続け、自分を信じ、粘り強く取り組み、やがて乗り越えていくことで、その経験は大きな糧となり、確かな医療人としてより成長していきます。

大学院に入学された皆さん。皆さんはこれから研究に取り組まれます。大学院での時間は、自ら問いを立て、自ら答えを探し続ける貴重な期間です。フランスの科学者ルイ・パスツールは、“Chance favors the prepared mind.”「幸運は準備された心を好む」という言葉を残しています。研究においては、「偶然」が大きな意味を持つことがしばしばあります。しかし、研究における発見や飛躍は、決して偶然だけによって生まれるものではありません。日々の地道な努力、深い思索、そして挑戦を続ける姿勢があつてこそ、その「偶然」は意味を持ち、価値ある成果へと結びつきます。どうか皆さんには、日々の努力を積み重ね、研究に取り組む中で、訪れるチャンスを確実に捉えていただきたいと思います。

最後に、皆さんは、将来医療人として他者を支えるために、まず自分自身の健康を維持することが大切です。心身のバランスを整え、患者さんの医療活動に従事できる健康な基盤をつくっていただきたいと思います。

不安なこと、疑問に思うことがあれば、いつでも、遠慮なく教職員に尋ね、身体的、精神的な問題については、保健管理センターに相談に来てください。



皆さんがこれから、真摯に勉学に励み、多くのことを学び、考え、病める人に共感できる感性を養い、建学の理念の最後に謳われている「人類の健康と福祉に貢献する」優れた医療人や研究者に成長することを心から期待し、学長告辞といたします。

令和8年4月7日

浜松医科大学長 渡邊 裕司